

2022年度 保健医療科学研究科(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。	
		実施状況(実施率)		評価		評価の理由/課題/根拠データ等	
1. アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。1) 学部学生に大学院生の研究紹介、修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。2) 学部卒業生を含む社会人に研究に誘う。3) 研究科のホームページをアップデートする。		3項目全て実施(100%)		2023年度入学者は17名であり、目標の定員20名を3人下回ったもの今年度入学者数の16名を1人上回った。修士論文最終試験への学部生参加、オンライン個別相談・説明会への参加がそれぞれ数名あった。		応募者数19名/合格者数19名/入学者数17名/科目等履修生1名	
2. カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。1) 適切な学修環境の維持と改善を図る。2) 教育課程の編成・実施に関する基本方針を公開する(認証評価への対応)。3) 多様な学修動機・目的に応える。4) 適正な教員組織の維持を図る。		4項目全て実施(100%)		授業評価平均4.60で、目標の4.90を0.30、前年度の4.65を0.05下回った。1) 授業情報の通知と柔軟な授業形態が授業評価の改善に結びつかなかった。2)、3) 認証評価に基づく是正項目2点(教育課程の編成・実施に関する基本方針のホームページ公開と、課題研究の研究結果の審査基準策定)が達成された。4) 教員体制を維持した。		授業アンケート前期4.70、後期4.59 研究科ホームページ「教育についての考え方と特徴」 2023年度保健医療科学研究科要覧 次年度開始時教員22名	
3. アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.2以上(KPI)を目標とする。1) 英語力を上げる。2) 論文作成に関する指導を充実させる。		2項目全て実施(100%)		学修ルーブリックでの自己評価が目標の3.2以上を達成し、前年度の3.01より0.22上昇した。項目別にみると英語力が2.00で依然と低かったが、論文作成が2.80に上昇した。取り組みの効果が英語力に現れず、論文作成に現れた。		2022年度修了生25名の学修ルーブリック自己評価平均3.23	
4. 研究:大学院生による年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数25と同じ25件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。1) 研究倫理承認の過程について理解を深める。2) 研究発表・論文投稿に関するスキルを上げる。		2項目全て実施(100%)		学会発表が38件(筆頭21件)あり、目標の25件を達成し、昨年度の13件を上回った。また学会誌・紀要投稿が4件あった。これまでの取組みの継続が結果に現れた。		学会発表国際10件(筆頭5件)・国内28件(筆頭16件) 学会誌投稿2件(筆頭、査読あり) 紀要投稿2年(筆頭、査読あり)	
5. ディプロマ:入学者に対する修了者100%(KPI)を目標とする。1) 研究計画立案の力をつける。2) 中間発表において進捗状況を確認する。3) 修士論文査読の過程について協議する。		3項目全て実施(100%)		2年次在籍生25名全員が修了し、目標を達成した。その内2名が研究倫理審査の必要性を問われたために課題研究を提出し、1名が相当な記述不備を指摘されたために修正版を提出し、再審査で全員合格となった。修士論文提出時点での完成度について指導教員が責任を持つことが委員会で改めて確認された。		修了者25名/2020年度入学者1名+2021年度入学者24名	
6. B`Vision 2024に向けての取り組み 1) 国際化に対応した地球市民の育成 英語力をつける。 2) ストレス耐性を持った人材の育成 協働する。 3) 永久サポート大学 社会と連携する。 4) 教育力日本一 課題の発見に取り組む。		4項目全て実施(100%)		国際学会発表で英語力が発揮される機会が増えた。学修ルーブリックでは災害知識・災害行動の達成度が平均的目標水準を少し超えた程度であった。修了生全員の就職が決まった。学修ルーブリックでは課題発見・課題解決の達成度が平均的目標水準とやや優れている水準の間であった。		国際学会発表(筆頭)5件 学修ルーブリック災害知識・災害行動の達成度平均3.30。 就職25名/25名 学修ルーブリック課題発見・課題解決の達成度3.52。	

2023年度 保健医療科学研究科

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	
1. アドミッション:定員20人の確保を目指す(KPI)。1) アドミッション・ポリシーを再検討する。2) 秋入学の体制を検討の上、構築を進める。3) ホームページの研究室紹介を更新する。4) 学部学生に修士論文中間発表会・最終試験への参加を促す。5) オンライン個別相談・説明会を行い、応募者を募る。6) オープンキャンパスでの説明会・研究成果のポスター掲示などを行う。	
2. カリキュラム:授業アンケートでの授業評価4.9(KPI)を目標とする。1) カリキュラムポリシーを再検討し、適切なカリキュラム構成を保証する。2) オンラインシステムと対面授業の双方の環境を維持し、授業内容を充実させる。3) 多様な学修動機・目的に応える。4) 適正な教員組織の維持を図る。5) GCIとの連携を図る。	
3. アセスメント:学修ルーブリックでの自己評価3.3以上(KPI)を目標とする。1) 英語力を上げる。2) 論文作成に関する指導を充実させる。	
4. 研究:大学院生筆頭の年間学会発表・論文投稿数の目標を2年次在籍者数16と同じ16件(研究KPI)とし、2年間で1人あたり1件以上の学会発表・論文投稿を目指す。1) 研究発表を研究科のホームページで公開し、発表を奨励する。2) 研究発表・論文投稿について大学院生同士で情報交換する場を設ける。	
5. ディプロマ:2022年度入学者16名に対する修了者100%(KPI)を目標とする。1) 研究計画立案の力をつける。2) 中間発表において進捗状況を確認する。3) 修士論文提出時の完成度が研究科内で見えるようにする。	
6. B`Vision 2024に向けての取り組み 1) 国際化に対応した地球市民の育成 海外機関との連携を検討する。 2) ストレス耐性を持った人材の育成 研究発表に向けて協働する。 3) 永久サポート大学 修了生との対話の場を設ける。 4) 教育力日本一 議論を深める機会を設ける。	